

京 都 大 学

國文學論叢

第 6 号



上代形容詞連用形の一側面……………大森 一浩 (二)

——萬葉集においてミ語法との関係から——

「バレット写本」の成立とその周辺……………川口 敦子 (二二)

——飾り模様を手がかりとして——

『萬葉集』五十九番「流らふるつま吹く風の寒き夜に

我が背の君はひとりか寝らむ」考……………河上志貴子 (二三五)

「風の声」の表現……………小山 順子 (二六五)

——和歌における「おと」「こゑ」試論——

禁詞考……………長谷川千尋 (二八三)

道をうづむ花……………大谷 雅夫 (二〇三)



〈編集後記〉

『京都大学国文学論叢』第六号をお届けいたします。
本号は、上代語の考察一本とキリシタン資料に関する論文が一本、萬葉歌の考察一本、連歌書研究一本、漢詩との関わりから和歌を論じた論文二本の計六本を掲載いたしました。大きく分けて国語学と韻文関係となり、時代的には上代から中世に亘り、充実した内容になっております。

川床が並び、祭囃子が響き、華やぎを増した京都に、今年もまたあの暑い夏がやってきました。

川かぜや薄がききたる夕すゞみ 芭蕉

(本多)



平成十三年六月二十五日 印刷
平成十三年六月三十日 発行

編集発行者

千六〇六一八五〇一

京都市左京区吉田本町

京都大学大学院文学研究科国語学

国文学研究室「国文学論叢」編集部

電話 〇七五―七五三一―二八二四

印刷者

京都市下京区室町通り仏光寺上る

亜細亜印刷株式会社

※表紙題字『易林本節用集』より

(京都大学文学部蔵慶長板)

